

「口腔と全身疾患との関係についての関心度・期待度」

内部調査調整プロジェクト結果報告

全国国民健康保険診療施設協議会

歯科保健委員会

【はじめに】

全国国民健康保険診療施設協議会（国診協）会員施設（歯科）の大多数は、へき地・離島・中山間地域等に位置しており、今まで医療資源や財源が乏しい中で、率先して保健・医療・介護・福祉の連携統合を図り、人間性豊かな地域づくりに取り組んできている。これまでも少ない医療・介護人材でさまざまな工夫を行いながら救急医療や感染症対応、災害医療、在宅医療などの地域包括ケアを支えてきた。国診協の特徴は、歯科医療機関を包含していることにある。さらに、「ありたい姿プロジェクト」においても、医科歯科連携で実現できる内容が盛り込まれている。

【目的】

国診協内での医科歯科連携をさらに促進させる対策を構築すること。

【方法】

歯科以外の職種に対して、口腔（歯科）と全身疾患との関係についての現在の関心度および歯科への期待度を調査した。

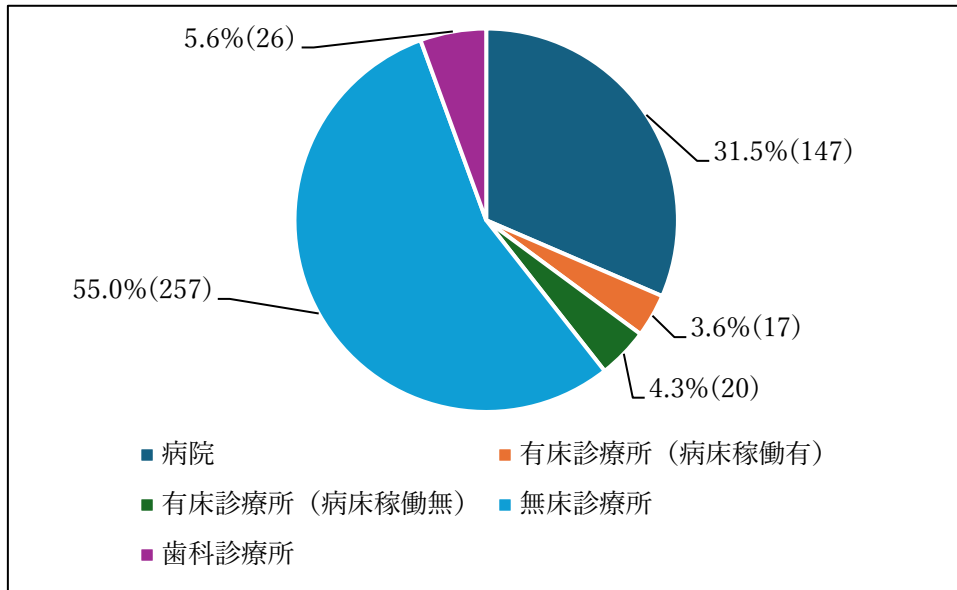
国診協歯科保健委員会では、令和 7 年度国保直診実態調査を令和 7 年 12 月 1 日にすべての国保直診施設へ発出し、令和 7 年 12 月 22 日を回答期限として実態調査を行った。調査内容は、口腔（歯科）と全身疾患との関係についての現在の関心度および歯科への期待度である。倫理的配慮としては、本調査は当会正副会長会、調査研究委員会、総務企画委員会、歯科保健委員会の承認を得て実施し、回答・提出により参加同意とみなした。

【結果】

467 件（792 件中）から回答を得た。

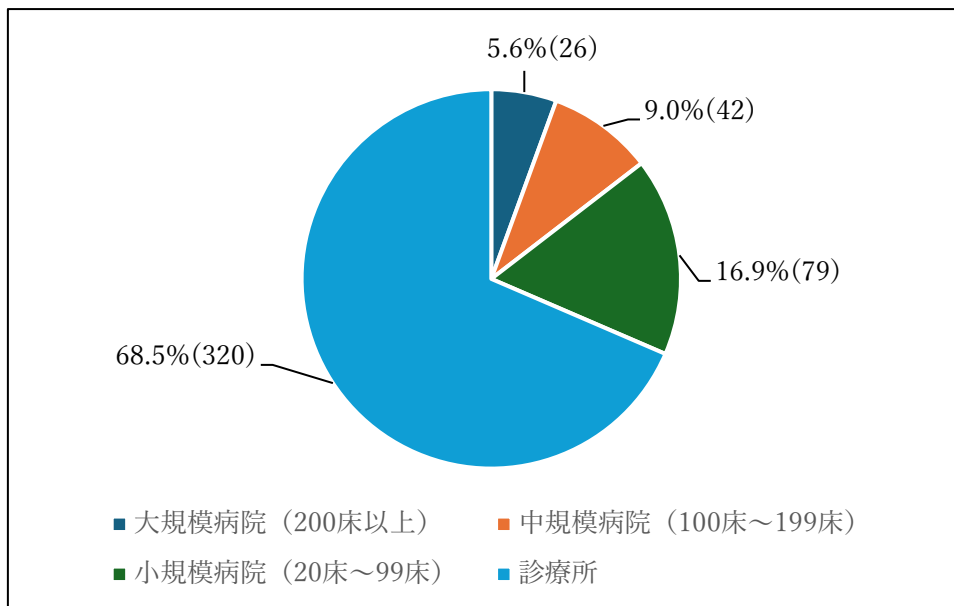
1. 施設の概要

① 施設形態



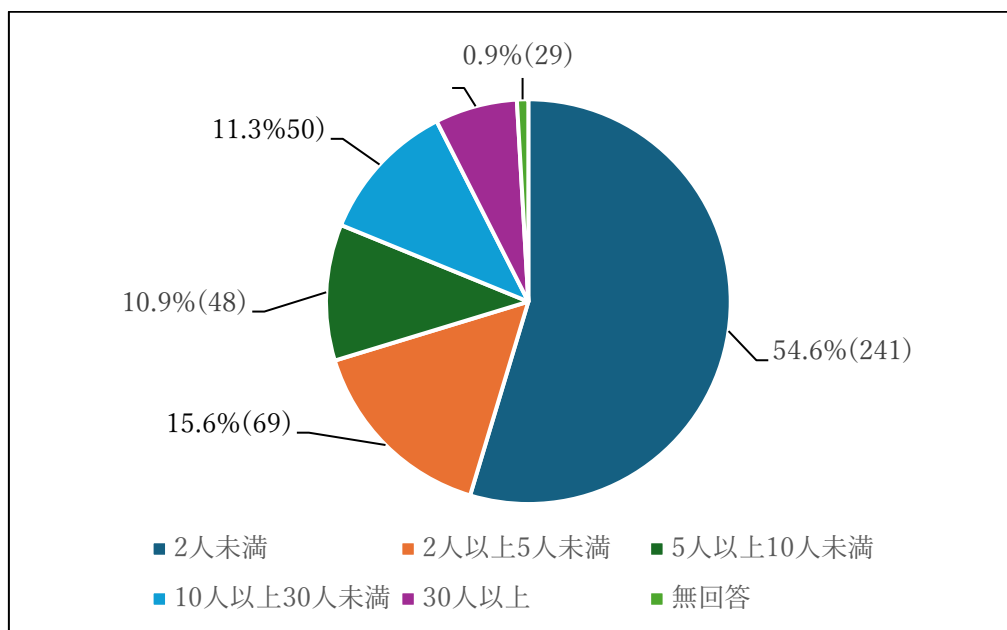
無床診療所および歯科診療所（無床）が 60.6%(283)であった。

② 施設規模



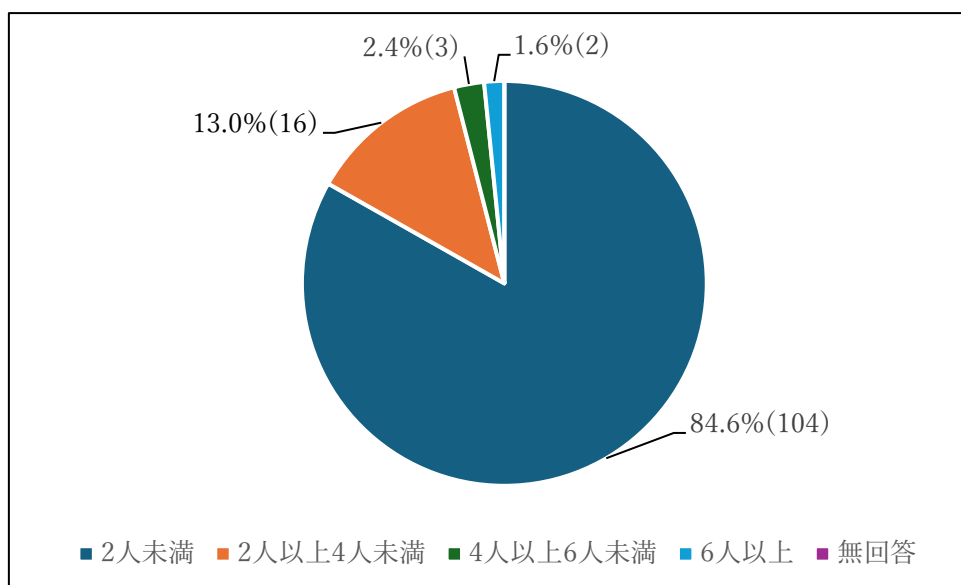
診療所が 68.5%と最も高かった。

③ 医科医師数（医科標榜施設のみ）



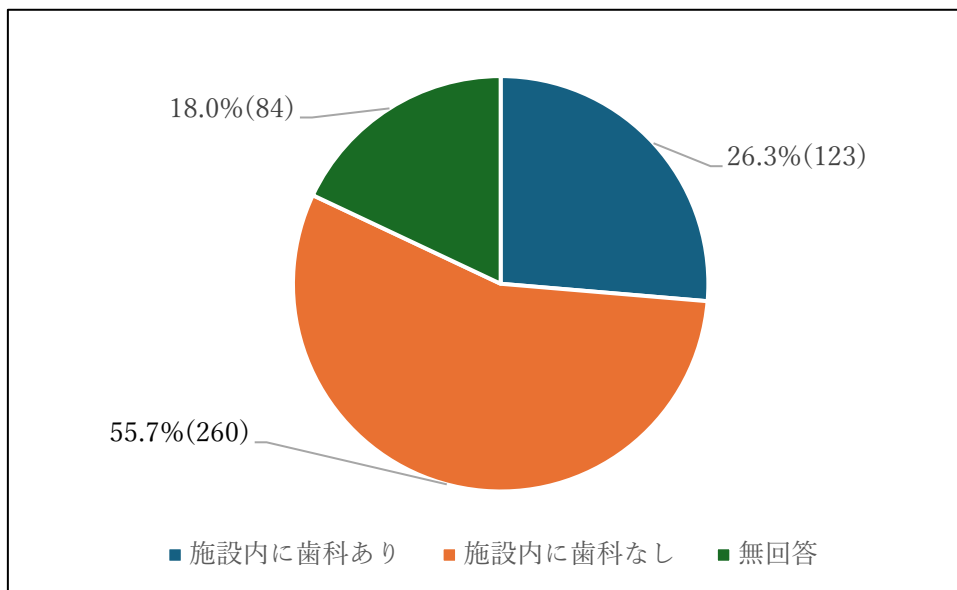
医師数は2人未満が最も高かった。

④ 歯科医師数（歯科標榜施設のみ）



歯科医師数は2人未満が最も高かった。

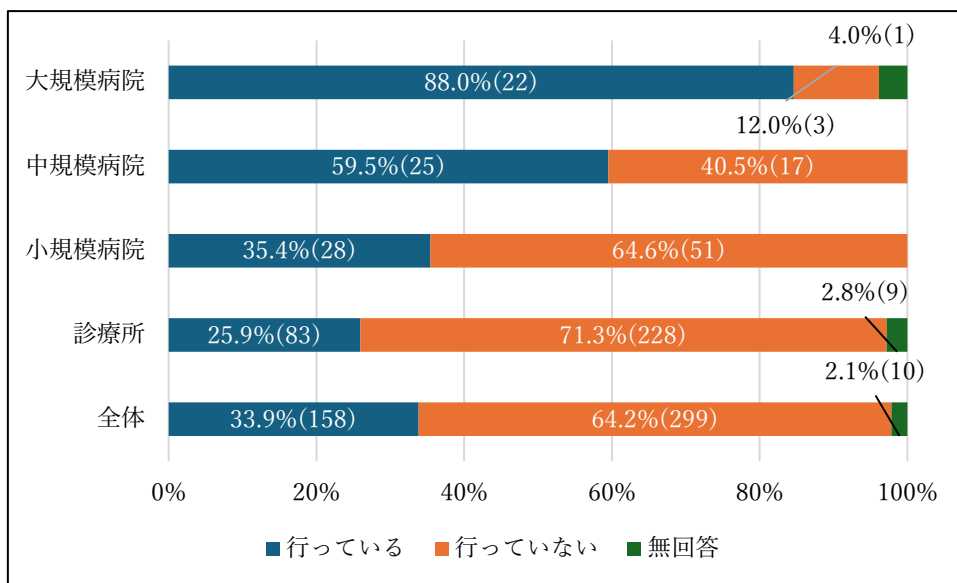
⑤ 施設内歯科の有無



「施設内に歯科なし」が最も高かった。

2. 設問

(1) 貴施設では医科歯科連携を行っていますか？【一つ選択】



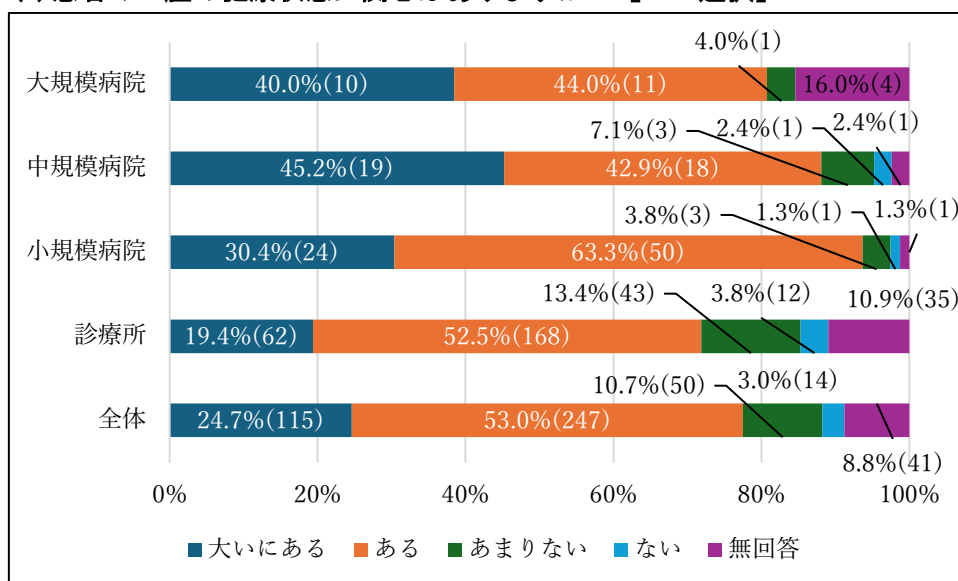
大規模病院で医科歯科連携が最も行われていた。

(2) 設問(1)で「行っている」と回答した方にお尋ねします。

(2-1) 具体的な連携方法を教えてください。【自由記載抜粋】

- ・同施設に歯科が併設しているため、入院患者の口腔衛生管理を行っている。
- ・地元歯科医師会（近隣の歯科診療所）・大学病院（歯科）と連携して歯科医師を派遣依頼・口腔衛生管理を行っている。
- ・診療情報提供書にて BP 製剤・がん・肺炎・妊婦・緩和ケア・ミールラウンド（食事観察）・栄養管理・周術期・糖尿病・摂食嚥下・骨粗しょう症・口腔周囲外傷などで連携している。
- ・歯科衛生士のみを雇用して医科歯科連携をはかっている。

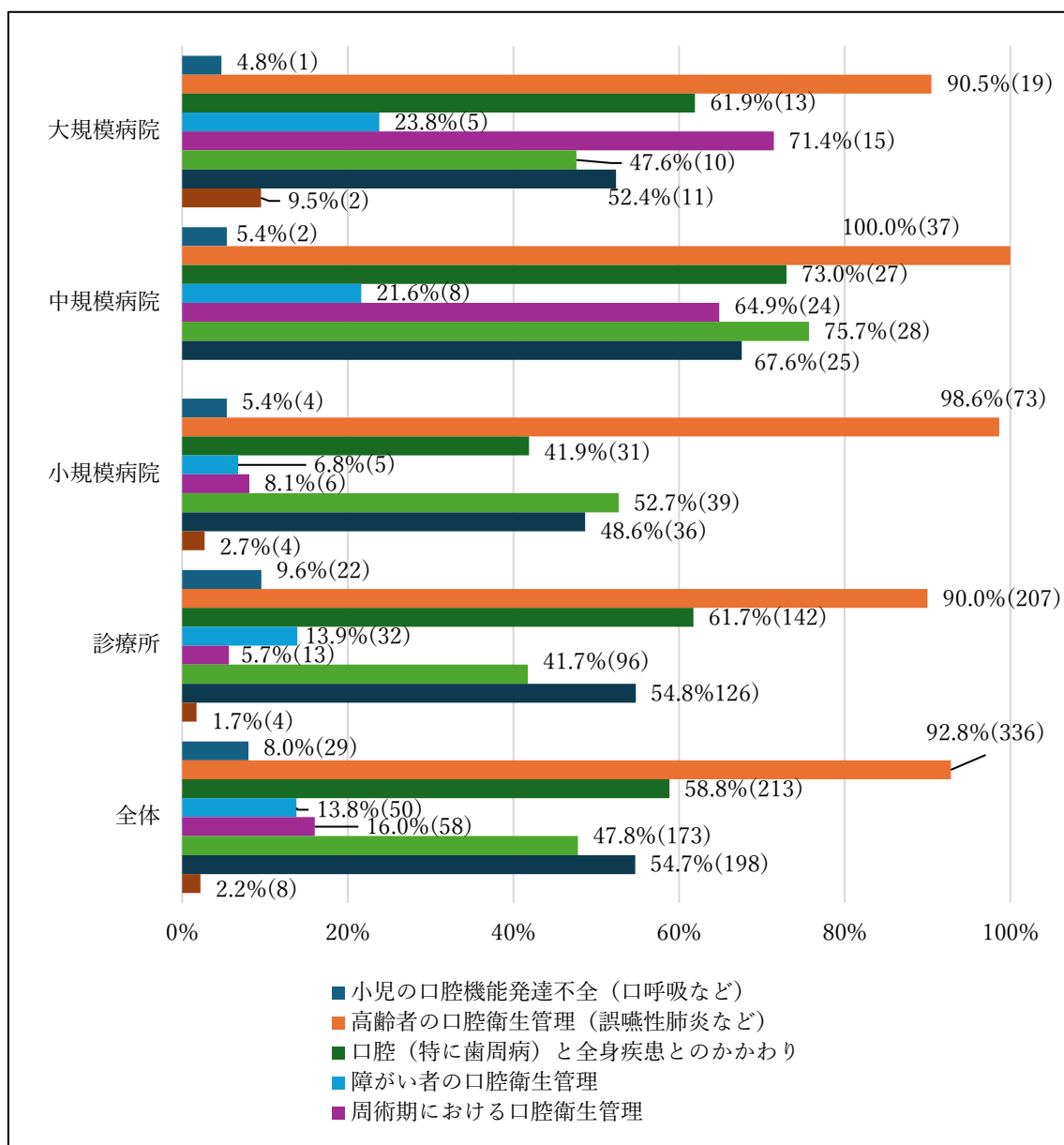
(3) 患者の口腔の健康状態に関心はありますか？【一つ選択】



患者の口腔の健康状態に関心がある（大いにある・ある）のは、医科歯科連携率が高い
 (1) 大規模病院よりも小・中規模病院の方が高かった。診療所では、「口腔の健康状態」
 に対して関心が低かった。

(4) 設問(3)で「大いにある」「ある」と回答した方にお尋ねします。

(4-1) どのような内容に関心がありますか？【複数選択可】



「高齢者の口腔衛生管理（誤嚥性肺炎）」について全ての施設形態で口腔と全身との関係について関心があった。「周術期における口腔衛生管理」について中・大規模病院において関心があった。「口腔（特に歯周病）と全身疾患とのかかわり」について全ての施設形態で関心が無かった。

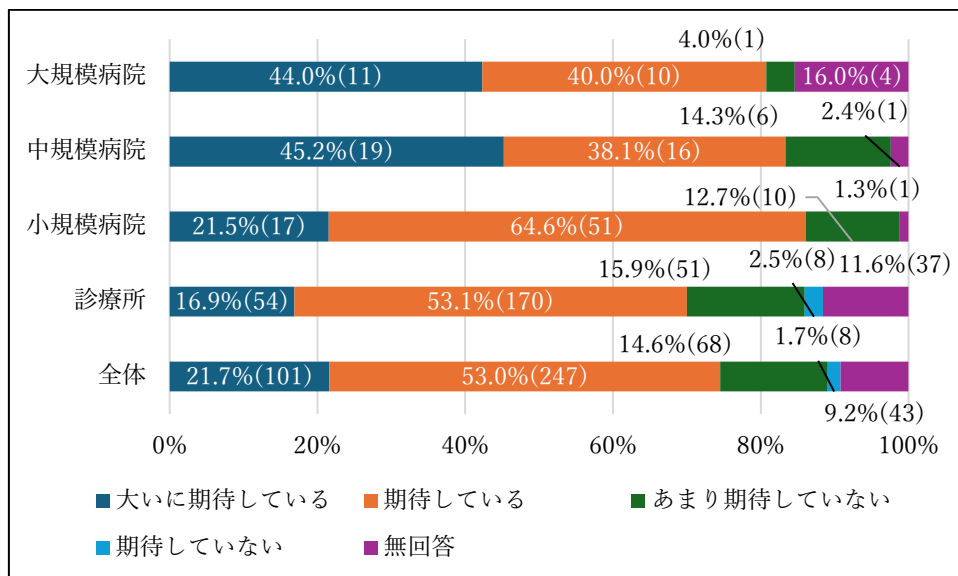
(5) 設問 (3) で「あまりない」「ない」と回答した方にお尋ねします。

(5-1) 関心がない理由をお聞かせください。【自由記載抜粋】

- ・ 患者が希望しないため。
- ・ 主病因と関係が無いから。

・普段から歯科と連携していから。

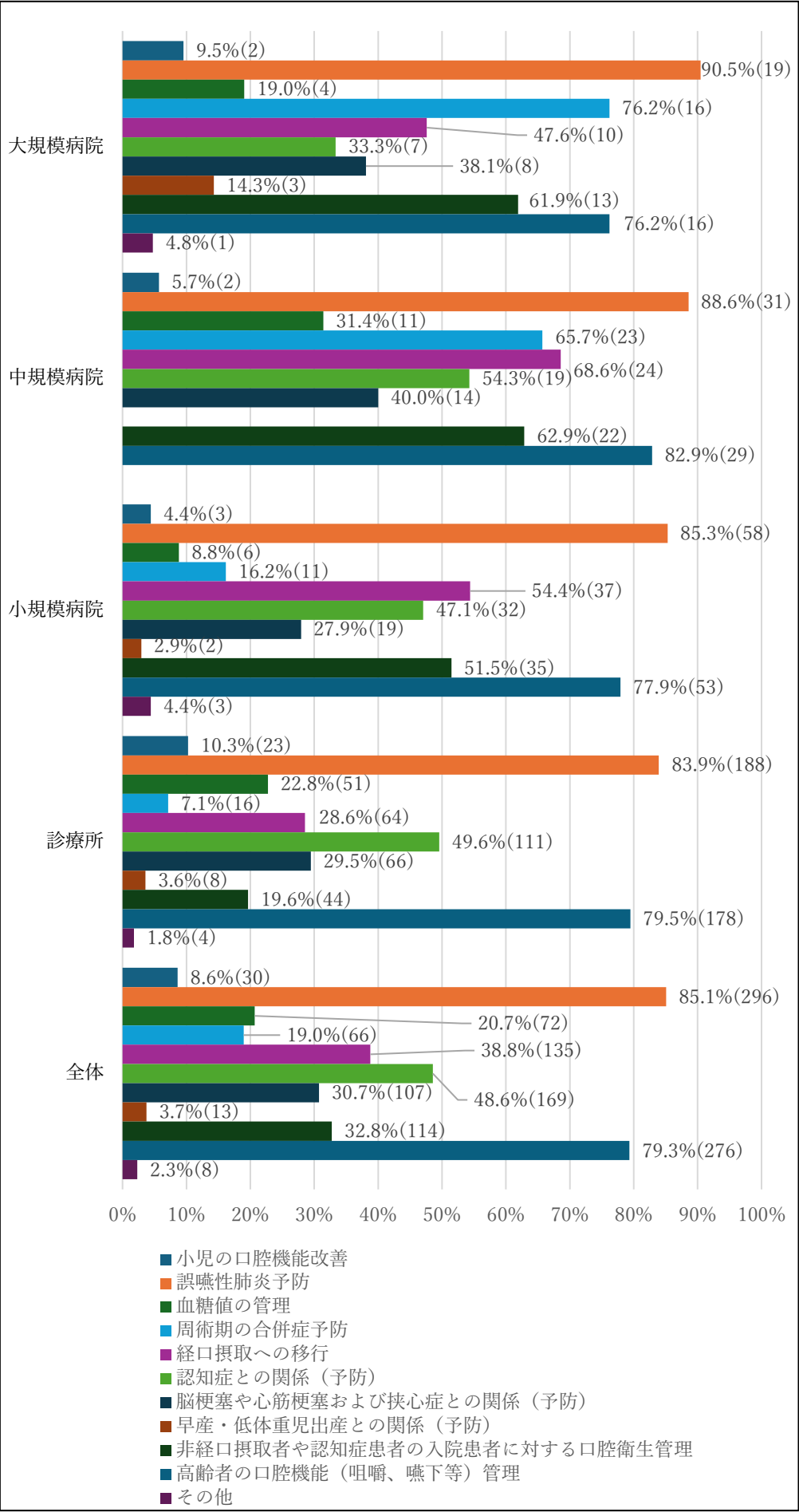
(6) 診療において歯科と連携することにどれほど期待していますか？【一つ選択】



医科歯科連携に関して大いに期待している・期待している施設は、全ての施設形態で高かった。(70.0%~86.1%) しかし、診療所では最も低かった。

(7) 設問(6)で「大いに期待している」「期待している」と回答した方にお尋ねします。

(7-1) どのようなことに期待していますか？【複数選択可】



医科歯科連携で最も期待している点は、全ての施設形態で「誤嚥性肺炎予防」および「高齢者の口腔機能（咀嚼・嚥下等）管理」であった。一方、「小児および早産・低体重児」に関しては低かった。

（8）設問（6）で「あまり期待していない」「期待していない」と回答した方にお尋ねします。

（8-1）期待していない理由をお聞かせください。【自由記載抜粋】

- ・患者が希望しないため。
- ・主病因と関係が無いから。
- ・普段から歯科と連携していから。
- ・どうやって歯科と連携すればよいかわからないから。
- ・口腔衛生管理の効果について不明であるため。
- ・歯科との情報共有することについて患者の協力が得られにくいから。

（9）医科歯科連携をしやすいようにするためには歯科にどのようなことを期待しますか？

【自由記載抜粋】

- ・歯科だけにというよりは、お互いが定期的に報告・相談できる協議会があって欲しい。
- ・医師への歯科疾患についての教育や周知をして欲しい。歯科との勉強連携強化をしたい。
- ・「かかりつけ歯科医」を持つことの推進していただき、ネットワークを各地域に転回して欲しい。
- ・どこの歯科医院が口腔衛生管理（入院患者を含む）や摂食嚥下評価ができるのか情報が無い。
- ・医科歯科連携を容易にストレスなくできるような仲介組織が欲しい。
- ・医科歯科連携に関する患者の理解の向上と医業収益の向上が望ましい。
- ・訪問歯科診療を依頼したい事例（摂食嚥下・低栄養・口腔感染症管理など）は多いが度の歯科医院ができるのか情報が無い。
- ・歯科関係者の地域ケア会議への参加
- ・地域や病院内・診療所内に歯科を設置して欲しい。
- ・歯科との連携は必要であることは認識しているが、どうしてよいかわからない。

【国診協内での医科歯科連携をさらに促進させる対策】

対策として、これらの結果を踏まえて、研修会や学会発表や学会企画および地域医療誌等を通じて理解を促していく。自由記載から、国診協らしい歯科と医科との研修会または事例検討会の開催も選択肢の一つになると考える。

【口腔に関する関心の程度から研修会の対象】

患者の口腔の健康状態に関心がある（大いにある・ある）のは、医科歯科連携率が最も高い大規模病院よりも小・中規模病院の方が高かった。一方、診療所では、「口腔の健康状態」に対して関心が低かった。

この結果から、対象は「診療所」を中心にする必要が示唆された。

【研修会の内容】

「高齢者の口腔衛生管理（誤嚥性肺炎）」について全ての施設形態で口腔と全身との関係について関心があった。「周術期における口腔衛生管理」について中・大規模病院において関心があった。一方、「口腔（特に歯周病）と全身疾患とのかかわり」について全ての施設形態で関心が無かった。

この結果から、「口腔（特に歯周病）と全身疾患とのかかわり」についての内容を中心に行う必要が示唆された。

医科歯科連携で最も期待している点は、全ての施設形態で「誤嚥性肺炎予防」および「高齢者の口腔機能（咀嚼・嚥下等）管理」であった。一方、「小児および早産・低体重児」に関しては低かった。

この結果から、引き続き「誤嚥性肺炎予防」および「高齢者の口腔機能（咀嚼・嚥下等）管理」についても働きかける必要が示唆された。

自由記載から BP 製剤・がん・肺炎・妊婦・緩和ケア・ミールラウンド（食事観察）・栄養管理・周術期・糖尿病・摂食嚥下・骨粗しょう症・口腔周囲外傷も挙がっていた。

【医科歯科連携の推進】

医科歯科連携に関して大いに期待している・期待している施設は、全ての施設形態で高かった。（70.0%～86.1%）

医科側からも歯科との連携は重要であることは認識しているので、合同の研修会（顔の見える関係構築）や簡便な連携方法の構築を希望していた。

この結果から、引き続き医科歯科連携を推進することによって、患者・住民の医療・保健に貢献していく。さらに、この調査を経年的（3～5 年ごと）に行うことで、医科歯科連携におけるこれからの対策の成果を確認し、対策内容を修正してまいりたい。